



発行・カトリック水巻教会
 編集・広報委員会
 遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
 〒807-0025
 TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
 第312号

ホームページアドレス <http://www1.com.ne.jp/~mizumaki>

信仰の伝達について考える マヘル神父

今年は信仰年ですから、信仰について考え、からしだねの記事のために用意したいと思い、「キリスト教信仰を伝えるための新しい福音宣言」より引用することにしました。これから、この考えについて皆さんで考えていきましょう。

▽教会は自らが生きる信仰を伝える

信仰の伝達は、複雑かつダイナミックな過程です。この過程はキリスト者の信仰と教会生活全体と関わります。自らが信じて生きていけないことを伝えることはできません。しっかりとした成熟した信仰を示すしるしは、それを他の人に自然に伝えられることです。福音をのべ伝えることを初めて可能にするのは、イエスとともに「いて」、イエスとともに聖霊のうちに御父を体験することです。よいこと、すばらしいこととして生きたことをのべ伝え、分かち合いたいという促しを「感じる」ことです。

(マルコ 三章十三～十四)

信仰の伝達は、グループや特別に任命されたひとに命じられた特別な活動ではありません。それはすべてのキリスト者、全教会の体験です。教会は宣教活動を通じて自らのあるべき姿を再発見します。教会とは、聖霊によって一つに呼び集められた民です。聖霊は私たちが数えきれない身分から呼び集め、キリストが私たちの間におら

れることを体験させ、父である神を見いださせます。「とくに生活が各人と社会全体に課す問題と期待に対して、信仰がどのように有効なこたえであるかをあかしすること—すべての人が多少の意識をもって予想し、求めている—は信徒の責任です。このことが可能となるのは、信徒が自分自身のうちに見いだされる福音と生活の間の遊離をどのように乗り越え、家庭や職場や社会といった日常の活動の中で、福音の影響と力によってもたらされる生活への総合的な取り組みをどのように始めるかによります。」

(7月号へ続く)

水巻共同体の新しい出発	2面
心の健康セミナー	3面
委員会等報告	4面
典礼委員会議事録	5面
黙想の家における研修会報告	6・7面
教会学校のページ	7面
おしらせ	8面



水巻共同体の新しい出発

広報 岩本 光弘



5月26日の信徒総会で、私たちの共同体は今年度のスタートを切ります。

今年度は、ご復活祭後に赴任されたマヘル神父と一緒に共同体が運営されることになりました。主任司祭が交代すると、一時的に新しい神父の考え方を理解するために混乱することがあります。どの司祭であっても人間ですから個性があるのですから当然ですが、今回はスムーズにいったように見えます。

私たちの共同体はどのようにするのがよいのでしょうか。

教会の中で楽しく、仲良くするのがよい教会というのが、今までの私たちの共通した考え方だったと思います。その結果がどうなったのか考えないといけません。

このことに関心を持って調査した教会もいくつかあります。そして、結果は少子高齢化で共通していました。これは日本の社会がそうであるから当然でしょう。

しかし、カトリック教会は、ほとんどの人が家族で参加していますので、家族があれば子どもも来るし、そんなに極端な高齢化はしないと思われるのです。

早くから対応をとってきたある小教区では、全体の参加者の割合からすると驚くほど子どものミサへの参加があります。ある日曜日には50人位の参加者なのに三分の一が子どもでした。

私たち水巻教会でも子どもは少ないのですが、ある大きな教会で侍者をする子ども

もがいないのを見たことがあります。特に少なくなったのは、30代から50代までの信徒が減ったことです。どうしてでしょうか。

第二バチカン公会議で、現代社会に生きるカトリック教会に生まれ変わったはずだったのが、その後の社会の仕組みの中に生きる信徒の、特に働く盛りの人たちのニーズに応えた教会になっていない結果ではないでしょうか。

ミサの案内や、教会の行事案内をもらっても、仕事の勤務状態で教会に行けない人がたくさんいます。皆さんの周りにそんな人はいませんか。

今からの教会は、囲いの中にいる羊を大切にするよりも、迷った羊を大切に教会でないといけないと教皇様は言っています。

水巻教会は新しい出発をしますが、どのような教会を目指すのか、みんなで眺めているのではなく、参加して進めないといけないときに来ています。

教皇様は「私たちの生き方で、私たちの証で、そして私たちの言葉でイエスを告げ知らせ」なければならない。「しかし、そうしない教会は母でなくベビーシッターのような教会になってしまいます」と言われました。

水巻教会は母なる教会でしょうか。ベビーシッターの教会でしょうか。

心の健康セミナー

Evidence Based Medicine (エビデンス=科学的根拠に基づく) 医療と
Narrative Based Medicine (ナラティブ=対話に基づく) 医療

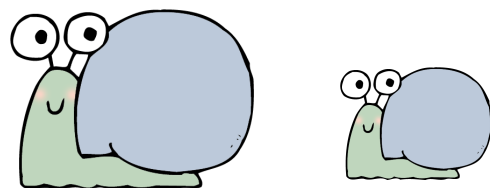
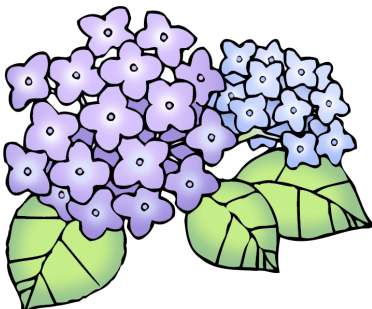
年4回開催する「心の健康セミナー」春バージョンが5月12日午後2時から黙想の家ログハウスで行われました。前2回は「死」にまつわるテーマを扱ってきましたが、今回は最新医療について考えました。

検査数値、映像、統計学的根拠に基づくサイエンスとしての EBM 医療と、医師が患者の語りを通じて病気になった理由や経緯を辿り、病気の背景や人間関係を理解し、患者の抱えている問題に対して全人的に対処する NBM 医療についてです。

これまでの医療は、医師の医学的知識と経験的技術に基づき医師個人の経験や勘に頼る傾向がありました。EBM 医療は、最新の臨床研究に基づいて統計学的に有効性が証明された質の高い医療の提供を目的としています。疾患ごとの診断や治療について作成された診療指針(ガイドライン)は、病気の診断に有効とされています。しかし、一方でサイエンスとしての医学が医者を医療技師化して、患者と向き合うよりパソコン画面に向かわせ、患者との対話やスキンシップともなる身体診察を軽視する側面もあります。EBM 医療の有効性は、患者の60%~90%とされ、40~10%有効でない患者が存在します。根拠になるデータが十分でない疾患、難病、高齢者のケア、死に至る病気、精神に関わる病気などです。検査に異常がなければ病気と考えられなければ患者の悩みや苦しみは癒やされないこととなります。

ストレス障害、パニック障害、過呼吸、生活習慣病などには、人の生き方、ライフスタイル、職業などが病気の素地を作っていることがあります。EBM 医療が発達してきた今も、医師が患者との対話を通じて、病気になった理由や経緯、病気との向き合い方を知ることによって患者との信頼関係をつくり、治療につなげることができます。EBM 医療と NBM 医療は対立するものではなく、互いに補完するものです。従来問診や身体診察の重要性は、サイエンスとしての医学と人間同士の触れあいのギャップを埋めるものと再認識されています。

報告 矢田公美



委員会等報告

2013年5月分

5月度小教区委員会 5月12日

1、信徒総会について

- ・5月26日、ミサ後に行いますので、たくさんの方が参加してください。
- ・役員について

司祭が交代したので、前年度の役員が今年度も引き続き留任することになりました。しかし、一部の地区では交代しましたので、総会の資料に掲載されている委員の名簿を確認してください。

- ・年間行事報告、決算報告、行事予定、予算などについては総会資料を参照してください。

2、直方教会落成記念行事

直方教会では現在までの教会から、新しい場所への移転がかなり前から計画されていました。現在の教会は直方駅から歩いて10分のところですが、知らない人が行くと教会を見つけるのが難しい住宅街の中にあります。今回の場所は200号線の横で、直方駅からまっすぐ行って遠賀川の橋を渡ったところに完成しました。駅からは少し遠くなったのですが、車で行く人にとっては分かりやすく、一般の人にも教会の存在がはっきり分かる場所になりました。立派な教会ですので、ぜひ一度訪ねてみてはいかがでしょうか。

3、大人の日曜学校

6月2日、ミサ後に行いますので参加してください。

4、森神父、古郡神父初ミサ

水巻教会に司牧実習に来ていた、森、古郡両神学生が今年の春にめでたく叙階され東京教区の司祭になりました。6月23日水巻教会に来られて、初ミサが行われます。たくさんの方が参加して両神父を祝ってください。

なお、森神父の召命については「福音宣教」誌4月号に、「召し出しを支える共同体」という記事に詳しく書いてあります。

5、新しい聖書の集いが始まります。参加を待っています。

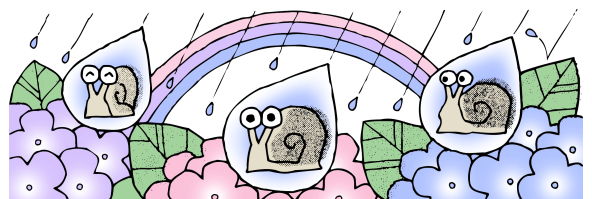
*信仰の仲間作りと、霊的成長を目指しましょう。

*期日 毎週火曜日 13時30分より
毎週木曜日 19時より

*場所 教会信徒会館

*内容 聖書と典礼を読み分かち合う

*指導 マヘル・ウィリアム神父



2013年度 第1回 典礼委員会議事録

開催日時：2013年4月28日(日)ミサ後 場所：信徒会館

出席者：マヘル神父、山本、宗、俵、浜口、三谷、吉岡、柴田、豊田神学生、矢田

《確認事項》

1. 黙想の家研修会について

参加：20名(うち未信者3名)

テーマ：「信仰を持って生きる喜び」(キリストと出会う)

講師：中村克徳神父

日時：4月29日(昭和の日)午前10時～午後3時40分

2名が午前のみ参加。

報告については、6～7ページに記載

《審議事項》

1. 聖母月の主日 9:10よりロザリオ一連(司会の先唱で)

マヘル神父様の意向では、9:00からロザリオ一環(5連)が望ましい。

10月のロザリオの月には、工夫したい。

2. マヘル神父様が典礼委員会に期待されること(下記の項目)

- ・審議の時間が充分に取れないため、実施については、小教区委員会に提案し、次回委員会までの懸案とする。
- ・主日ミサの前に「教会の祈り」(聖務日禱)を唱える。
- ・「聖書100週」(旧約・新約聖書を毎週2～3年がかりで通読する)を提案。
- ・11月死者の月は、従来通り色紙或いは紙に死者の名前を書いて奉納し、一ヶ月間追悼の祈りをミサ前或いはミサ後に唱える。
- ・ミサ中の朗読を大切にする。地区の当番制になっているので、専門家に頼んで研修会を開くことも考えられる。
- ・ミサの参加人数を把握する。(聖堂案内係が説教終了後くらいに数える)

3. 土曜日夜のミサについて

アンケート調査の結果を見て検討。(6月から実施?)

4. 今後の典礼委員会開催について

第2日曜日ミサ後

5. その他

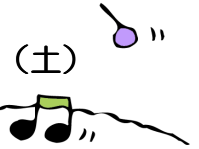
- ・病人のための祈りをプランバシーに配慮しながら行う。
- ・必要に応じて、聖体拝領の前に、洗礼を受けていない人(未信者)が祝福を受けることができる旨アナウンスする。

次回予定 2013年度第2回典礼委員会 7月14日(第2日曜日)ミサ後



黙想の家における研修会（報告）

4月29日（土）



典礼委員会主催として、黙想の家で研修会が行われ、「信仰の喜び」（キリストと出会う喜び）と題し、中村神父による黙想指導が行われました。なお、今回の研修会では、感銘を受ける3つの詩が静かに読まれ、それを折り込みながらの説話となりました。

常に神に感謝する意識を忘れないこと、が最初の主題に挙げられました。具体的には、神に向かう心、それ自身が感謝であるべきことが話され、また、ミサに預かること自体に「ありがとう」という気持ちがあるか、が問題だとされました。（なお、ミサは、典礼語句上ラテン語で、エウカリスチア（語源としては感謝の意味）とも言うことも、語られました。）

2000年前、イエスが捕らえられたときには逃げ出してしまった様な、弱い弟子たちであるにも関わらず、復活したイエスはそんな弟子を迎えた。これこそ、感謝すべき大きな恵みであるということ。これはもっと弱い私達にも当てはまります。

ここで、詩として1つ目のものが読まれました。全17行程度の分量で、第1節を紹介するなら、「大事をなそうとして、力を与えてほしいと神に求めたのに、慎み深く従順であるようにと、弱さを授かった。」というものです。この詩を全体的に解釈すれば、「人間は弱いので神と1つになっているかを常に調べるべき」であり、この詩の内容を演繹すれば、「富が蔓延する生活を送るよりも、子供時代に金銭に不自由が与えられれば、強い人間になるかもしれない」ということです。私（人間）は、自分がより偉大なことをして、それが神のためにもなると思ったが、神はもっと小さなことを求めている。それを踏まえ、この詩の1つの帰結として、（第6節）「求めたものは1つとして、与えられなかったが、願いはすべて聴き入れられた」と書かれています。併せて、修道院でついに食べるものがなくなった折の、聖フランシスコのエピソードが話されました。

次に、神への感謝は、神との交わりの中で起こるもので、神と親しい友人の様に語り合うべきこと、が論じられました。イエスの復活後、弟子たちでさえ、夕暮れのエマオへの道で、イエスが共に歩いていることに気づけなかったことは、神と親しく語らうことの難しさを表しています。

しばらくして、詩として第2のものが読まれました。 そのタイトルは『許し得ない苦しみの中で』というもので、説話の後半部はこの主題となりました。詩の途中には、「自分は何も傷つかないところにて、赦し合いましょう、愛しあいましょう、というのは誰にでもできることです。傷ついて、苦しんで、どうすることもできないほど・・・」とあります。黙想研修会の場の空気を伝えるのは難しいのですが、神父の指導のもと、出席者には、『私たち

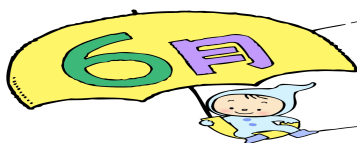
はどんな場面を経験したにせよ、自身を猛省し、許す人間に変わらなければならない!』という空気がみなぎりました。

関連する聖書の話が用いられましたが、イエスは、ペトロとの会話で、許すべき回数は、7の70倍と言われ、また十字架に張り付けにされたイエスは、罵られながらも、「この人たちは何をしているか分からないのです」と言われた。イエスのご本心を言葉にするなら「神よ、この人達を救って下さい。」だと解釈されます。中村神父の説話は、この後、「現実には照らし合わせ、どんなに苦しい時でも、神はその人が背負いきれない重荷を与えることはない」と続けました。

詩の朗読の第3のものは、『人をゆるすことを教えてください』でした。これは第2の詩と類似が多いですが、この詩の第1節で、「主が私達をゆるしてくださるように、私たちにも、人をゆるすことを教えてください。」と、教会でよく聞く文言が挙げられています。現実生活を直視すれば、「苦しみにあえぐ、私が持っている誇りの故、高慢の故に、苦しみにあえぐ」; 時には喉元を熱さが過ぎるように忘れる場合もあるが、現時点で悶え苦しむときには、私にとっても十字架が、打撃を与えたと思う他者にとっても十字架が与えられていると、中村神父は述べられました。

以上は、午前にあった講話だったのですが、以降、分かち合いの時間で、神父の講話を元に、感想と自分の経験を述べ合いました。その後、和気あいあいと皆で昼食を取ったあと、午後は、黙想の家の広大で、緑あふれる森の中での十字架の道行を体験しました。総じて、敬虔にして、新鮮な黙想研修会を体験できました。指導の中村神父はもちろんのこと、企画して頂きました矢田さんに感謝します。

典礼委員 三谷 尚



教会学校のページ



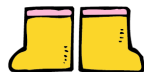
4月28日

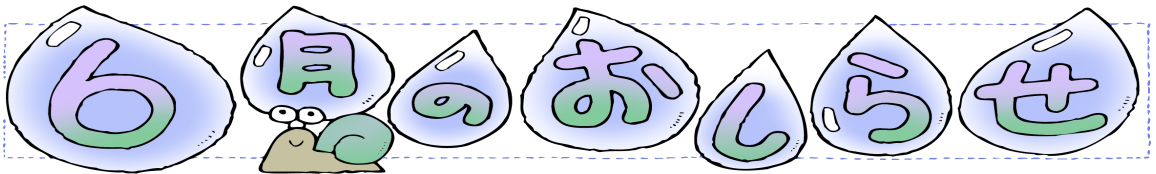
○神学生と自己紹介



5月12日

○十字架のしるしについてのお話
○アヴェマリアの祈り





★特別献金★

5月5日(日) 世界広報の日

35,400円

ご協力ありがとうございました。

人-ひと

【帰天】安らかに

◇5月9日

竹内 スマさん

★特別寄付★

西山寿美枝様より、教会に寄付がありました。
ありがとうございました。



「今、憲法が危ない」 講演会のお知らせ

* 講師 木村 公一 牧師 (福岡国際キリスト教会) * 場所 カトリック小倉教会

* 期日 6月16日(日) 時間 14時~16時半 * 参加費(資料代) 500円

谷 大二司教(日本カトリック正義と平和協議会会長)から呼びかけ

憲法が危ない! 自民党が中心になって押し進めようとしている改憲は日本の社会構造を根底からくつがえすものです。それは、憲法の基本精神である平和主義、国民主権、基本的人権を蹴散らし、軍国主義を復活させるものです。

私たちは連帯の輪を広げ、現憲法の基本精神を守るために行動しましょう。もう待っている時間はありません。いますぐに、私たちは声を上げましょう。私たちの声は神への祈り、叫びです。もっともっと、大きな声で、神と善意ある人々に訴えかけていきましょう。



正義と平和全国集会を、福岡で開催します

昨年秋に長崎であった全国集会後、2014年は福岡でという打診が、担当の谷司教からありました。教区の担当司祭である中村神父(戸畑)からも、教区信徒協に協力してほしいという内容だったので、教区代表者会議で協議した結果、協力することが決まりました。

その結果を受けて、2月12日に開かれた福岡教区司祭総会で検討の結果、開催することが決まりました。さっそく実行委員会が6月から開催され具体的な検討に入ることが5月12日の教区信徒協代表者会議で決まりました。

中村神父の話では、開催予定日と場所は2014年9月13日~15日・大名町教会として準備を始めると言われました。